子どもの心の
診療拠点病院機構推進事業

（　子どもの心の診療支援事業　）

山梨県

子どもの心の診療支援事業に関する山梨県の取組み

Ⅰ　事業開始の経緯

Ⅱ　平成２１年度事業報告

Ⅲ　平成２２年度事業計画

Ⅰ　事業開始の経緯

子どもの心の医療･福祉等の現状
（H21.2.16検討会議結果）

１. 全ての機関で受診が殺到し、深刻な待機状況がある。

２. 本格的な精神科治療を要する児童の増加

３. 生活の場がない児童の増加により入院期間の長期化

４. 児童相談所等の相談援助活動の困難化

５. 児童福祉施設に心の問題を持つ児童が増加し、支援困難化、不安定化

基本的な方向
（H21.2.16検討会議結果）

１．子どもの心の問題・医療等を県の政策医療とし、児童・思春期医療を拡充する。
　後期臨床研修レジレントを県立北病院が中心となり実施し、児童精神科医を人材育成する。

２．一般医師が子どもの心の問題・医療等を実施できるように啓発し、一般医師への研修を県が実施する。

基本的な方向
（H21.2.16検討会議結果）

３．児童福祉施策の充実と連携
　県立北病院思春期病棟等を退院した後の生活の場の確保を図る。

４．医療・保健・福祉・教育分野の連携体制の構築

子どもの心の問題に関する医療体制の整備

背 景

○心の問題を抱える子どもの増加

不登校児童生徒数（学校基本調査）	837人（H10）	→	1，190人（H19）
発達障害支援数（発達障害者支援センター）	171人（H18）	→	356人（H20）
養育・発達・療育相談件数（保健所、市町村）	243件（H15）	→	416件（H19）
児童虐待相談件数（児童相談所）	55件（H10）	→	340件（H19）
自閉症相談件数（児童相談所）	8件（H10）	→	126件（H19）

現 状

○専門医療機関における受診待ち

県立中央病院　思春期外来（非常勤医2人、週各1日診療）
　　初診3か月待ち　再診1か月待ち
あけぼの医療福祉センター　小児神経外来（発達障害が中心）
　　初診1～2か月待ち
子どもメンタルクリニック（中央児相）
　　初診3か月待ち　再診5か月待ち
県立北病院　外来　（児童思春期の患者も一般外来で受診）
　　受診待ちの状況にはない
　　思春期病棟12床　満床が続いている

課 題

○医療提供体制が不十分

○精神科医とりわけ児童精神科を専門とする医師が不足

対応方針

○児童思春期の精神科医療の充実　→　地方独立行政法人の「中期目標」に

【中期目標の内容】
①児童思春期の精神科医療の充実に向け、②精神科医師の増員を図る中で、
③児童思春期の精神科医療を専門とする医師の育成や、
④児童思春期患者に特化した社会復帰支援プログラムを実施する。

①児童思春期の精神科医療の充実 →「政策医療」へ位置付け検討
②精神科医師の増員 →「医療従事者の研修」へ位置付け検討
③児童思春期の精神科医療を専門とする医師の育成 → 同上
④児童思春期患者に特化した
　社会復帰支援プログラムを実施 → 児童思春期対策事業の中で検討

○医療・保健・福祉・教育が連携した支援体制の構築

具体策

○後期臨床研修制度の導入（県立北病院）
→　地方独立行政法人の「中期計画」に

非常勤医師として2人

○子どもの心の診療拠点病院機構推進事業の実施
（県立北病院、中央児童相談所、精神保健福祉センター）

児童思春期の精神科医療に係わる
　　人材育成のための研修
医療・保健・福祉・教育の連携を図るための
　　事例検討会等

事業開始

○ 実施主体　山梨県福祉保健部障害福祉課

○ 拠点病院

- 県中央児童相談所子どもメンタルクリニック
- 県立精神保健福祉センター
- 県立北病院

○ 事業開始　　平成２１年１０月

Ⅱ　平成２１年度事業報告

平成２１年度
子どもの心の診療支援事業

（１）専門医療機関の診療体制強化

ア　中央児童相談所子どもメンタルクリニックに
児童精神科医と心理士を週１回１日追加配置

初診3カ月、再診5カ月待ち

⇒初診２，８カ月、再診３，８カ月待ち

イ　児童精神科医等のスキルアップ研修

毎月3回実施⇒うち２回県外講師で実施

専門医療機関の診療体制強化
実施結果

児童精神科医師等のスキルアップ研修

開催日	開催場所	内容	参加者数
H22年1月29日（金） 午後2時から4時	山梨県福祉プラザ 中央児童相談所 会議室	講義Ⅰ： 『思春期の総合的理解： 多軸診断という視点から』 講師：大分大学医学部小児科 こどもメンタルクリニック 精神科医師　清田晃生　先生	49名 （医師6名、看護師9名、 保健師2名、心理職17名、 精神保健福祉士2名、 福祉職他8名、センター5名）
H22年1月29日（金） 午後4時15分 から6時半		講義Ⅱ： 『思春期の精神力動的診断評価』 講師：慶応義塾大学医学部 白波瀬丈一郎　先生	

（２）小児科医及び精神科医等の診療体制強化

ア　診療対応力向上研修

小児科医及び精神科医等に対する専門研修

○　国中地域と郡内地域で各１回（３月１２日・２６日）

○　内容「子どもの心の診療支援について」

　　講師　国立成育医療センター　笠原真理先生

イ　先進地研修及び専門研修

医師や専門職員を先進地医療機関や学会等に派遣

○専門研修派遣

○学会等研修

小児科医及び精神科医等の診療体制強化
実施結果

先進地研修及び専門研修

研修名	開催地	日程	参加職種		参加人数
子どもの心の診療に携わる専門的 人材育成セミナー	東京都渋谷区	H21年10月19日～21日	医師（1）	1名	16名
PTSD対策専門研修会	東京都港区	H21年12月7日～9日	心理士（1）	1名	
思春期保健対策専門研修 医師・コメディカルスタッフアドバンスコース	東京都　港区 大阪市泉佐野市	H21年12月16日～18日 H22年2月15日～17日 H22年2月8日～10日	医師（1） 精神保健福祉士（1） 心理士（3）、 看護師（1）	6名	
成人の自閉症スペクトラム診断　専門職講座	神奈川県横浜市	H22年2月11日	医師（1）	1名	
先進地研修 三重県あすなろ学園	三重県津市	H21年11月30日～12月1日	医師・看護師・心理士 作業療法士 精神保健福祉士	7名	

診療対応力向上研修

	開催地	日程	参加者数		参加人数
小児科医・精神科医と関係スタッフのための子どもの心の診療支援研修 （子どもの心の診療支援について）	甲府市	H22年3月12日　pm7:00~9:00	小児科医・精神科医等	58名	
	富士吉田市	H22年3月26日　pm7:00~9:00	小児科医・精神科医等		

事例検討会

	開催地	日程	参加者
思春期の処遇困難事例	北病院	H22年2月19日	医師、心理士、PSW、看護、児相、甲陽学園

（３） 関係機関との支援連携会議及び庁内会議の開催

ア 支援連携会議（平成２２年２月９日）

委員：小児科医会・精神科病院協会・精神科診療所協会・学識経験者・児童養護施設・市町村・保健福祉事務所及び庁内関係機関の代表

イ 庁内会議（平成２１年１１月２０日）

委員：福祉保健部次長・福祉保健部総務課・児童家庭課・障害福祉課・県立病院経営企画室・健康増進課・中央、都留児童相談所・甲陽学園・障害者相談所・精神保健福祉センター・あけぼの医療福祉センター・育精福祉センター・富士ふれあいセンター・中央病院・北病院・教育委員会の代表

Ⅲ　平成２２年度事業計画

平成22年度
子どもの心の診療支援事業計画

（1）専門医療機関の診療体制強化

ア　中央児童相談所子どもメンタルクリニックに常勤児童精神科医と心理士を追加配置（各1人）

イ　県立北病院に後期臨床研修医の研修を委託（2人）

（２）小児科医及び精神科医等の診療体制強化

ア　児童精神医等のスキルアップ研修

子どもメンタルクリニック、精神保健福祉センター、中央病院、北病院、あけぼの医療福祉センターの医師等が症例検討による研修の実施（毎月３回うち3回県外講師）

イ　診療対応力向上研修

小児科医及び精神科医等への専門研修

県内2カ所（国中・郡内）で開催（各１回）

ウ　医師及び専門職員を先進地研修及び専門研修へ派遣（１０人）

エ　医師、看護師、心理士、保健師など専門職員への子どもの心の問題に関する最新情報をシリーズで開催（６回うち3回県外講師）

オ　地域で子どもの心の問題に関わっている保育士や教員等への研修を開催（１回）

（３）普及啓発事業

ア　児童精神科医療機関や相談窓口の一覧や子どもの心の問題に関する情報をホームページに掲載する。

イ　県民を対象に子どもの心の問題に関する講演会やシンポジウムを１回開催する。

（4）子どもの診療支援連携事業

ア　関係機関との支援連携会議及び庁内会議を開催（各１回）

イ　通院や入院が必要な児童思春期事例に関わる関係機関職員による合同事例検討会を開催（６回）

平成23年度以降の
子どもの心の健康対策

○　子どもメンタルケアセンター開設

　子どもメンタルクリニックと発達障害者支援センター機能を中心に、児童相談所及び精神保健福祉センター業務の一部を統合し、診療・相談支援・療育支援・人材育成、研究等の機能を果たすセンター開設に向けて準備（21年度～22年度）